

熊本日日新聞 4th.Sep 2015
津奈木に寄りかかり滞在制作
画家 武内明子さん(32)＝熊本出身

文化生活部
bunka@kumanichi.co.jp
TEL:096-361-3181 FAX:096-361-3290

近況 津奈木に寄りかかり滞在制作
画家 武内 明子さん(32)＝熊本市出身

津奈木町の「アーティスト・イン・レジデンスつなぎ2015」に招かれ、5月から町の空き家に滞在して制作してきた。8月下旬に訪ねたときは、19日から始まる個展「文無日記/風にねんかかる」の準備に追われていた。「昔から夏休み最後になって、宿題終わってない！と慌てる子どもでした」と笑う。

三ツ島海水浴場にイーゼルを据え、横約370㌢の大作にも挑んだ。「海があって浜辺があって、そこにポツンと絵が置いてある。ここに来る前から、そんなイメージがありました」。頭の中の絵に入り込んで描いていたのは、虹のように移ろう色と形だった。津奈木で目にした風景や色彩、出会った人々、日々の感情のゆらぎが、美しいパッチワークになっていた。

町の暮らしにねんかかり（寄りかかり）、祭りに参加し散歩を楽しみ、地物の野菜や魚を食べ、有線放送に聞き入る。住民とのワークショップでは、「タチウオ色」「セミの抜けがら色」などの絵の具を作ったりもした。

「絵画は自分の中にあるもので、住んでいる場所の影響は受けないと思っていたけれど、最近は描きながら津奈木での出来事が浮かんでくるんです」
(小野由起子)

※「武内明子 文無日記/風にねんかかる」は19日～11月29日、つなぎ美術館で。



三ツ島海水浴場で制作した作品を見る
画家の武内明子さん、もう少し手を入れて完成だという。津奈木町

津奈木町の「アーティスト・イン・レジデンスつなぎ2015」に招かれ、5月から町の空き家に滞在して制作してきた。8月下旬に訪ねたときは、19日から始まる個展「文無日記/風にねんかかる」の準備に追われていた。「昔から夏休み最後になって、宿題終わってない！と慌てる子どもでした」と笑う。

三ツ島海水浴場にイーゼルを据え、横約370㌢の大作にも挑んだ。「海があって浜辺があって、そこにポツンと絵が置いてある。ここに来る前から、そんなイメージがありました」。頭の中のの絵に入り込んで描いていたのは、虹のように移ろう色と形だった。津奈木で目にした風景や色彩、出会った人々、日々の感情のゆらぎが、美しいパッチワークになっていた。

町の暮らしにねんかかり（寄りかかり）、祭りに参加し散歩を楽しみ、地物の野菜や魚を食べ、有線放送に聞き入る。住民とのワークショップでは、「タチウオ色」「セミの抜けがら色」などの絵の具を作ったりもした。

「絵画は自分の中にあるもので、住んでいる場所の影響は受けないと思っていたけれど、最近は描きながら津奈木での出来事が浮かんでくるんです」

(小野由起子)

「武内明子 文無日記/風にねんかかる」は9日～11月29日、つなぎ美術館で。